

第 1 章 序説

文法とは

国語文法と日本語文法

文法の範囲

▼文の成分

▼言語の二重分節性

第 2 章 日本語文の基本構造

格関係

▼必須成分(必須補語)、随意成分(随意補語)

基本文型

第 3 章 品詞論

品詞の分類

<名詞>①普通名詞 ②固有名詞 ③数量名詞(数詞) ④時詞

⑤形式名詞(補助名詞)

<代名詞>①人称代名詞 ②指示代名詞

▼ダイクシス(直示)

<連体詞>

<副詞>①状態の副詞 ②程度の副詞 ③陳述の副詞

<感動詞>

<接続詞>

<助詞>①格助詞「からへやでとのがをにより」

②副助詞「は、まで、でも、だけ、か、なり、くらい、ほど、きり、ばかり、
しか、など、も、さえ、こそ、やら、だって、ずつ、とか」

③並列助詞(並立助詞)

④接続助詞

⑤終助詞

<形容詞、形容動詞>

<助動詞>

<動詞>

第4章 構文論

<文の種類>

<ヴォイス>

受身、使役、使役受身、授受表現、可能、自発

<アスペクト>

「ている」「である」「ておく」「つつある」「てくる/ていく」「ところだ」「ばかりだ」

<テンス>

絶対テンス、相対テンス

<モダリティ>

断定、意志、推定・伝聞、確信、説明、義務・必要、伝達

<単文・複文・重文>

<従属節の種類>

・名詞修飾節

▼内と外の関係

・補足節

①名詞節 ②引用節 ③疑問節

・副詞節

①順接条件節 ②逆接条件節 ③原因・理由節 ④時間節 ⑤目的節

⑥様態節

・等位節、並列節

第5章 明治以降の文法史、主語・主題・主格

<明治以降の文法史>

<主語・主題・主格>

▼主題「は」に関する構文